

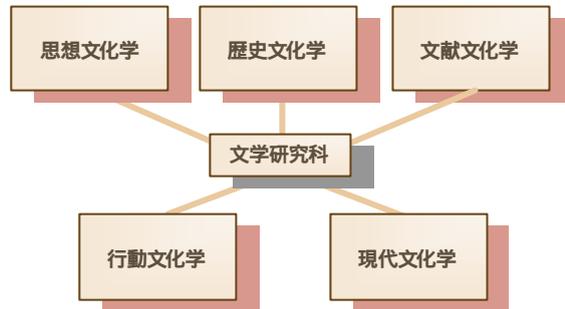
(様式1)

| | | | |
|-------------|---|---------|----------|
| 大 学 名 | 京都大学 | 学 問 分 野 | 人文科学 |
| 専 攻 等 名 | 大学院文学研究科歴史文化学専攻他 | | |
| 拠点のプログラム名称 | グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成 | | |
| 拠点リーダー氏名 | 紀平英作 | 所属部局・職 | 文学研究科 教授 |
| プログラムの概要 | 本プログラムは、京都大学文学研究科の歴史文化学専攻を軸とし、それに他の4専攻(思想文化学・文献文化学・現代文化学・行動文化学)の活動を緊密に絡ませることを通して、現代世界の人文学的課題に挑み、さらには人文学における世界的研究教育拠点の形成を図ろうとする。 | | |
| 拠点形成の目的・必要性 | 人文学は19世紀後半以来、地域限定的研究方法で個別地域の文化的特性を明らかにしてきた。しかし、政治経済の動向、人々の意識が瞬時に連動しあうものとなりつつあるとき、人文学もまた自身の視野を広げ、新たな人間理解を、研究の中心的視座に加えなければならない課題に直面している。とくにグローバル化が進む今日、人びとの価値観あるいは社会活動のいたる所で一元化を促す外的な力と多元性を維持しようとする動きが葛藤している。グローバル化はきしみを伴い、無数の人々がうめき声さえあげているのである。本プログラムは、そうした人類社会の複雑な移行状況を視野に入れて、歴史学、哲学、文学という人文学の基礎的3分野において、一元化と多元性の葛藤という今日的であると共に歴史的である問題の抽出に取り組み、現代世界のグローバル化の歴史的背景とその今日的意義を明らかにする人文学的知を構築しようとする。自然科学分野の進歩を人類の福祉に確実につなげていく、人間理性の再構築も、この視野のうちにある。 | | |
| 研究拠点形成実施計画 | 現代世界が抱える一元化と多元性の葛藤、さらには多元的世界がはらむ問題に人文学として取り組むため、まず3つの基層プロジェクトを分野ごとに立ち上げる。1)「グローバル化時代の多元的歴史学」(歴史学系プロジェクト)、2)「多元的世界と哲学知」(哲学系プロジェクト)、3)「文学と言語にみる異文化意識」(文学系プロジェクト)である。計画の統合化の段階では、領域横断的研究会を体系的に組織し、知見の総合化と体系化を図る。また、その間、研究の国際的連携の拡大をめざし、国際的な共同研究の体制を組織する。以上の基本的実施計画を補うものとしてさらに以下の計画を遂行する。 1)若手の研究員を積極的に非常勤研究員として参加させ、若い研究者の独創性の育成に努める。2)シンポジウムその他、研究論文集・その他出版物の刊行などを通じ、研究成果を広く内外に公表する。3)最終段階として著名な外国人による本計画への評価を受ける。 | | |
| 教育実施計画 | 1)大学院教育体制の高度化のため、本プログラムの基層プロジェクト、さらには全体に係わって、内外の優れた研究者を数多く講師として招き、大学院教育の国際化を格段に図る。2)大学院生およびPDを加えた研究会を積極的に組織し、国際的な共同研究に対処する基礎的知識の習得を求めると共に、彼らの独創的研究を育む。3)本プロジェクトの枠で実施する史資料調査、現地調査・発掘を教育の一環としても位置づけ、若手研究者の参加を促す。4)実践的な語学訓練を教育計画の重要な一環に組み入れることによって、日本語以外の言語での口頭発表の機会、論文執筆機会を増やすよう指導する。 | | |

「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」
京都大学大学院文学研究科

歴史文化学専攻
思想文化学専攻
文献文化学専攻
行動文化学専攻
現代文化学専攻

拠点リーダー
紀平英作（文学研究科長）



申請の経緯

100年にわたる、わが国人文科学研究・教育拠点としての実績を基盤に

- 1) 批判精神の蘇生にむけて
- 2) 現代世界が地球規模で経験する大きな変化

拠点形成計画の特徴と目的

- 1) 今日のグローバル化が持つ複雑な意味の解明を目指す
 - (1) 「一元化と多元性の対峙」という切り口をとおして
 - (2) 歴史的アプローチによって
- 2) 3つの基層プロジェクト
 - (1) 歴史学グループ：グローバル化時代の多元的歴史学
 - (2) 哲学グループ：多元的世界と哲学知
 - (3) 文学グループ：文学と言語にみる異文化意識

グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成を目指して

